

科目名	国際看護	対象学年・時期	3年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間のうち15時間
講義概要	<p>ディプロマポリシー1, 2, 6に基づく。国際社会においては、持続可能な開発目標が掲げられ、継続的に解決策が講じられている。反面で、国別に格差が著しく、日本も医療を含む国際協力を行っている。日本では、人口減少から労働力を自国で賄えず、外国人労働者・在留外国人が増加している。また、経済連携協定（Economic Partnership Agreement ; EPA）に基づき、医療・介護領域で看護職・介護職を受け入れている。看護の対象として外国人と関わる機会や、同じ現場でチームの一員として外国人と協働する機会も増加している。患者としての対象であっても、同僚としての対象であっても、人間的関心を寄せて関わることに変わりがないものの、対象と関わるには、政治・経済・社会システム・保健医療福祉システム・文化・習慣・信条などの理解が重要である。国際看護活動における対象把握の要因と、国際的な健康問題を認識したうえで解決に向けて、対象の尊厳を守りつつ提供する看護活動を学ぶ。</p>		
授業形態	<p>講義 演習（グループワークによるアクティブラーニング）</p>		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会における保健医療福祉の動向を知る。 2. 国際的な健康課題と目標を理解する。 3. 看護の国際協力の意義について理解する。 4. 国際協力における看護師の基本的責務を理解する。 		
学習内容 (授業計画)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会の保健医療福祉の動向 2. 国際社会における健康問題と課題 3. 異文化における健康観と保健行動 4. 看護の国際協力の組織、しくみ <p>国際看護の基本的理念と活動</p> <p>青年海外協力隊、国際緊急援助隊、NGO、NPO</p> <p>国際看護協会の活動</p>		
使用テキスト	<p>国際看護学入門・日本看護協会出版会 国民衛生の動向</p> <p>参考資料：系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院</p>		
事前学修・事後学修 (学習を促進できる学修)	<p>その都度指示する</p>		
評価基準と評価方法	<p>筆記試験</p>		
備考			